

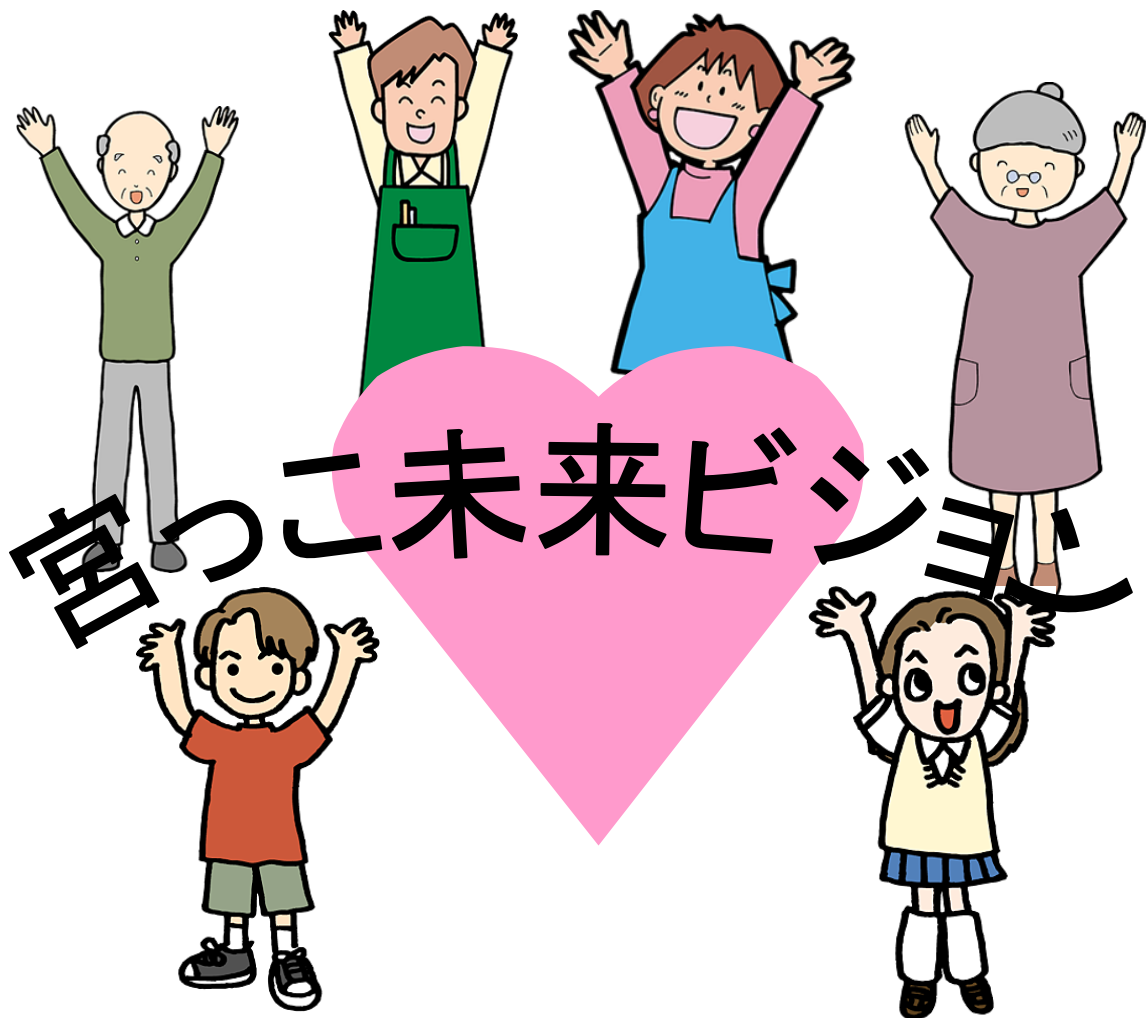
## 第1章 人づくりの課題と求められる力

宇都宮の人づくりの課題を明らかにするためには、これまでの本市の人づくりのあゆみと今後の社会変化の予測について十分に検討する必要があります。

第1章では、宇都宮の人づくりのあゆみを振り返るとともに、新たな時代を切り拓く<sup>ひら</sup>人づくりという観点から、おおむね20年先までの社会変化を想定し、その課題を明らかにしました。

また、人づくりに関する問題点に対応するため、各ライフステージ<sup>(注4)</sup>にある人々とそれらを支える家庭や地域、幼稚園・保育所、学校、市民活動団体、企業が取り組むべき役割を示しました。

さらに、これらの課題や役割を踏まえて、21世紀社会を生き抜くために求められる5つの力を設定しました。



注4) ライフステージ 人間の一生を誕生から死亡の過程とし、その過程の特徴的な節目と変化によってとらえたいくつかの段階。

## 1 宇都宮市の人づくりのあゆみ

宇都宮市は、古くから二荒の森を中心に門前町、宿場町、城下町として栄え、人やものの交流が活発な街でした。そして、戦災や幾多の社会の混乱を乗り越え、周辺の町村との合併を繰り返しながら、農工商の均衡のとれた県都として発展し、平成16年には人口45万人を突破する北関東随一の都市として成長を遂げてきました。これは、本市が、次のような取組を通して、人づくりを推進してきた成果であるとも言えます。しかしながら、これらの取組は、人づくりの視点から見た共通の目標に基づくものではなく、取組間の有機的な関連も十分に図られていなかったという反省点もあります。このことが、今日の人づくりにおける様々な問題の一因にもなっていると考えられます。

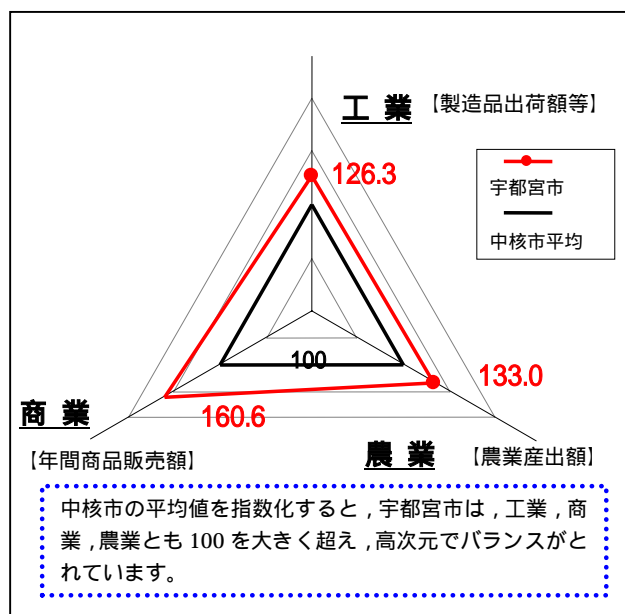
### (1) 産業界と学校との連携

宇都宮市は、バンバなど大きな商店街を中心とした商業のまちとして発展してきましたが、近年は、大型ショッピングセンターなどが郊外に進出し、中心部の空洞化が問題視されています。このような中、商業の再興を図ろうと、餃子やカクテルなど特色ある観光資源を育て、全国にPRしています。また、農業では、平坦で広大な農地と鬼怒川水系の豊かな水資源などの自然環境を生かして、水稻、野菜、果樹など全国に誇れる多数の農作物をバランスよく生産するとともに、品種改良などにより、トマト、なし、いちごなどの重点作物の振興を図り、地域としてのブランド力を高めつつあります。

さらに、工業では首都圏内に位置するという有利性を生かし、高度成長期に合わせ二つの大きな工業団地を造成し企業を誘致するとともに、昭和59年には、

国から「宇都宮テクノポリス」の地域指定を受けるなど、先端技術産業が集積する工業都市として成長しています。

このように、宇都宮市は、地域特性を活かしながら、様々な産業をバランスよく発展させ、中核市でも有数の経済力を有する都市となりました。これは、宇都宮の市民性である「勤勉性」(注5)を生かしながら、市民一人一人の職業人としての自己実現(注6)を支援する高校・大学などが、産業界と連携してきた結果であると言えます。



(注5)「勤勉性」 勤勉とは、一般に「仕事や勉強に一心に励むこと」であるが、平成15年11月20日(木)～12月4日(木)に宇都宮市民1,833人に行った「教育に関する市民意識調査」においての「地道に物事に取り組む姿勢」を勤勉性とし、宇都宮市民が優れている点としてあげられている。資料編P2参照。

(注6)自己実現 個人が、自己の内に潜在している可能性を最大限に開発し実現して生きること。

## (2) 小中学校教育の充実

宇都宮市は、学校教育における教育水準の維持向上を図るため、教育施設・環境の整備、充実に努めてきました。また、本市における小学校 59 校、中学校 21 校では、全国に先駆けた指導助手の配置によるきめ細かな指導の展開、社会性や職業観・勤労観を身に付けさせるための企業の協力を得た社会体験活動の実施、児童生徒の個性をはぐくむ特色ある教育活動の推進などに取り組んでいます。

## (3) 生涯学習活動の推進

宇都宮市は、市民一人一人が学習活動に取り組める環境の整備や学んだことを地域社会で生かすことができる仕組み、家庭・学校・地域のネットワーク化の構築などに取り組んできました。また、様々な社会教育団体、地域団体が、福祉や環境などのボランティア活動や国際交流に取り組み、世代や国境を越えた人と積極的に触れ合える環境づくりにも努めています。

## (4) 文化活動の振興

宇都宮市は、地域の文化財の保存・活用を行うとともに、菊水祭、天王祭といった伝統的な祭りを通して、伝統や先人の知恵を後世に伝えることができるような環境づくりも支援してきました。また、市民自らが文化活動に関心をもって生活を豊かにすることができるよう、文化会館や美術館、図書館などの文化施設の整備に努めるとともに、ジャズの街づくりなど宇都宮ならではの特色ある文化活動の振興を図っています。



【伝統的な祭り 天王祭】

## (5) スポーツ活動の振興

宇都宮市は、体育館、野球場、プール、野外活動施設などの各種スポーツ施設を有し、地区体育協会やスポーツ少年団、競技団体などにより、これらスポーツ施設を活用した市民のスポーツ活動が積極的に行われてきました。また、宇都宮マラソン大会やジャパンカップサイクルロードレースなど、全市的なイベントを開催してきました。このような活動を通して、市民のスポーツに対する意識を高めるとともに、体力の向上に努めています。

## 2 変革をせまる時代の潮流

21世紀社会は、我々がかつて経験したことのない大きな社会変化が訪れると考えられます。それは、次にあげるような社会変化であり、現時点では想像もつかない社会変化なのかもしれません。

このような中で生きる私たちに求められることは、いかなる社会変化に直面しようとも、その社会変化を前向きに受け止め主体的に生き抜くことを通して、新たな社会の創造に寄与できる力を身に付けることです。

したがって、人づくりについても「社会の変化に対応できる人づくり」から「新しい時代を創造する人づくり」へと発想を転換していくことが重要です。

### 【社会経済のグローバル化】

情報通信技術や高速交通網の発展に伴い、人の流れ、物の流れのみならず、情報、資本などが国境を越えて自由に移動するグローバル化が進み、国際競争が一層激化してきます。このことにより、個人の権限と責任が明確化され、個人がそれぞれのアイデアや創造性を基に行動する社会となってきます。このような社会では、個人の創造性と意欲、自己の行動に責任をもつ態度はもとより、世界とやり取りをする語学力・情報技術力、表現力（論理性、論旨の明快さ）などの国際対話能力の育成が求められます。



## 【高度情報化】

インターネットなどの情報技術の発展により、国を超えて「個人」対「世界」、「個々の企業」対「世界」というやり取りの機会が増加してくるものと考えられます。また、様々な情報ネットワーク（注7）が構築されることにより、女性や高齢者などの活躍の機会が多くなり、自己実現の道が大きく開かれてくるものと予想されます。

この高度情報化は、社会の組織の「分散化」を生む一方で、情報技術面で優位にたつものがそうでないものを淘汰する、いわゆる、「勝ち組」と「負け組」の再編を一層進めせると予想されます。また、インターネット上において国際共通語として認識されている英語力と情報技術を有する者と有しない者の格差が拡大し、人生そのものを左右することにもなってきます。

このような社会では、情報のアクセス（注8）格差が生じないように、新しい情報技術を積極的に獲得できる力や情報活用能力、世界に通用する情報モラルの育成が求められます。



## 【環境共生と多文化共生】

地球環境問題は、今後一層深刻化し、21世紀に人類が抱えるきわめて大きな課題になるものと予想されます。これは、人類に「自然」との共生について考えさせ、具体的な行動を強く求めさせることになると考えられます。また、社会経済のグローバル化や高度情報化、交通手段の発達、外国人の在住と新たな労働力の活用は、多種多様な文化の交流や摩擦を生み、多文化共生の時代が到来するものと考えられます。

このような社会では、自然の本質を理解し、「人間」との調和を考えたり、日本人としてのアイデンティティー（注9）をもちながら他国の文化を理解したりするなど、自国や自己を中心に据えたものの考え方から他を尊重し共に生きようとする共生の精神を培うことが求められます。

（注7）情報ネットワーク 複数のものを結び、データなどを共有し、情報処理の効率を図るシステム。  
（注8）（情報への）アクセス コンピューターなどで、情報の入力や取出しを行う手段。  
（注9）アイデンティティー 集団の中で、他者と異なる自分固有の存在を自覚すること。

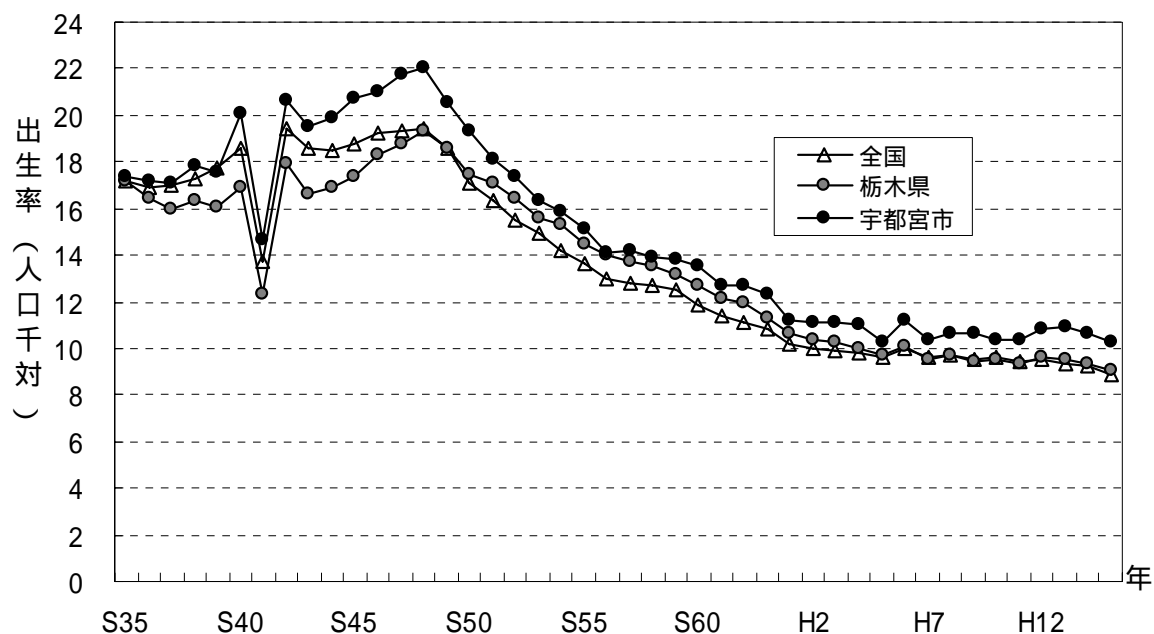
## 【少子高齢化】

「少子化」については、今後も晩婚化・非婚化が進行し、100年後には、今の日本の人口が半減すると推測されています。また、「高齢化」がますます進行し、本市においてもおよそ2011年には5人に1人が65歳以上になる「超高齢社会」が到来するものと予想されます。

これらの変化は、労働力や社会保障制度にも大きな影響を及ぼすとともに、家庭の形態にも影響を与え、核家族や独居老人の増加につながってくるものと考えられます。このことにより、子育て経験の不足や子育ての知恵が伝承されないことなどによる家庭の教育力の低下、高齢者の引きこもりなどの問題が一層顕著になってきます。

今後は、子どもを生き育てやすい環境づくりと家庭の教育力の向上、高齢者の英知が十分に生かされる仕組みの構築が求められます。

全国、栃木県、宇都宮市の出生率（注10）の推移



（厚生労働省統計情報部調べ）

注10) 出生率  $\frac{\text{出生者数}}{\text{人口}} \times 1,000$

## 【価値観の多様化】

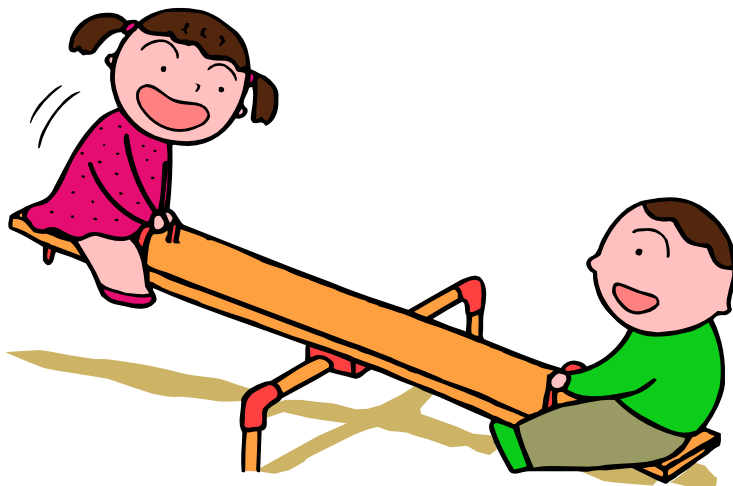
成熟化社会の到来により、「ものの豊かさ」から「こころの豊かさ」へと価値観が変化しています。しかしながら、一方では、近年、「モノ」や「カネ」を重視する傾向が急速に強まり、目的追求のためには、他人に配慮しないというような風潮になってきています。従来、社会には、法律にないモラルや倫理的なものとして、「社会の常識」が確立されていました。しかしながら、自由化・個性化が進み、社会が一定の価値観を示せない状況となり、行き過ぎた個人主義を生み出す一因にもなったと考えられます。今後は、個を重視しながらも、思いやりやルール遵守など、社会生活をする上で最低限身に付けなくてはならない価値を市民とともに明らかにし、それに基づいた行動をすることが求められます。

## 【社会の階層化】

制度の自由化、規制緩和など市場主義的な経済政策などを背景として、個人の所得格差が拡大・固定化していく「社会の階層化」が進んでいると言われています。このような社会では、子どもの教育環境が家庭の経済状況によって左右され、「社会の階層化」をより助長する一因になると予想されます。このため、行政や企業は、すべての人にチャンスが平等に与えられ、努力が報われる仕組みを確立するとともに、自らの生き方を追求しようとする「意欲」を大切にし、失敗してもやり直しのきく仕組みを構築することが求められます。

## 【住民自治の進展】

地方分権の一層の進展に伴い、従来、国の責任において行われてきた事業が地方公共団体に移譲されるなど、国と地方公共団体との役割の再編が進んでいます。今後、地方公共団体においては、均一化した事業展開からそれぞれの地域の特性に対応した事業展開へと移行させることが重要となってきます。この実現のためには、「地域のことは地域の意思と責任に基づいて、地域で行う」という住民自治の仕組みを再構築するとともに、行政の事業展開にあたっては、政策形成、決定過程、執行、評価に市民が参加できる仕組みが必要となります。



### 3 ライフステージにおける現状・問題点と課題

#### 各ライフステージの「学び」とは

人は、各ライフステージにおいて、様々な人々や自然、動植物との触れ合いを通して、次のような課題を乗り越えながら、多くのことを学び、成長していくものと考えられます。このビジョンでは、ライフステージを青少年育成施策大綱などの国の諸計画等の区分や生涯発達論の考え方などを参考に、人が生きる上で大きな転換となるできごとを基本に、次のような5つの段階に区分<sup>注11)</sup>しました。

#### 乳幼児期（おおむね0～6歳未満）とは 【心と体の根っこをはぐくむ】

乳幼児期は、保護者などの大人にたよりながら、自己の欲求や感情を十分満足させてもらう関係の中で、基本的な信頼関係を形成する時期です。

幼児期は、自分が困った時に保護者は助けてくれるという安心感のもと、保護者から離れて活動し、その成功経験から自分への自信を深めます。また、他者とぶつかりつつも衝動をコントロールする力を身に付け、自発的に目的意識をもった行動ができるようになっていく時期です。



#### 少年期（おおむね6～15歳未満）とは 【夢と希望と自信をはぐくむ】

家族との人間関係から学校・地域での人間関係へと広がりを見せる時期です。この時期には、仲間と協力していく手法を習得したり、知的で好奇心旺盛な活動により、試行錯誤しながらも主体的に物事に取り組み自力解決する力を身に付けたりすることで、自分への信頼や自己肯定感を深める大切な時期です。また、自分への信頼や自己肯定感をもとに、未来に夢と希望をもって、様々なことに挑戦していく時期でもあります。



#### 青年期（おおむね15～30歳未満）とは 【自分らしさをはぐくむ】

地域や社会とのかかわりを深めながら、社会に認められる自分らしさを確立するとともに、他者を心から理解し思いやりながら、社会的に責任のある行動がとれる力を身に付ける時期です。



#### 成人期（おおむね30～65歳未満）とは 【自己の可能性と次世代をはぐくむ】

かけがえのない家族の存在を認識し、支え合いながら円満な家庭を築く時期です。また、社会の中での自分の役割を考えるとともに、地域の子どもたちや後輩など、家族以外の他者とともに地域活動・社会貢献活動に取り組むことで、無限の可能性をもつ次世代の育成を支援する時期でもあります。



#### 高齢期（おおむね65歳以上）とは 【社会と自己をはぐくむ】

身体的な不自由さや親愛なる人との死別など、肉体的にも精神的にも大きな試練が伴います。このような時期においても、自己のよりよい生きがいを求めるとともに、長年培ってきた知恵・技術、経験などのすばらしい力を全人類的な視点から社会還元することが求められる時期です。

注11) ライフステージの区分の考え方については、資料編 P1 参照。



## 【乳幼児期（おおむね0～6歳未満の未就学時期）】

### 【乳幼児期の問題点】

保護者との基本的な信頼関係を形成できない乳児が増加しています。

基本的な生活習慣や我慢する力が身に付いていない幼児が増加しています。 など

#### （１）家庭教育の現状と課題

- ・家庭の形態の変化などにより，祖父母などから子育ての知識が伝えられず，保護者の多くは，「自分の子育てが正しいのか」など子育てに関する不安や悩みを抱えています。
- ・今後は，乳幼児期における家庭教育の目標を明確化し，子育ての悩みや情報を共有化するネットワークの構築が求められます。さらに，保護者が子育てに十分に時間を確保できる職場環境の整備が求められます。

#### （２）幼稚園・保育所の現状と課題

- ・現在，幼稚園や保育所へ通う割合は，3歳児で幼稚園が6割，保育所が2割，4，5歳児では，幼稚園が7割，保育所が2割を超えており，各園各所の方針に基づき教育や保育が展開されています。このような中，保護者は，幼稚園に保育機能の充実を，保育所には教育機能の充実を求めています。
- ・今後は，幼稚園の教育機能や保育所の保育機能のノウハウ<sup>（注12）</sup>を共有化する取組を推進するとともに，友達などとの人間関係を形成する力や我慢する力など，この時期に身に付けるべき資質能力について家庭と共通理解し，その育成に取り組むことが求められます。

#### （３）地域や市民活動団体等の現状と課題

- ・一部の地域には，保護者が気軽に子育ての話ができる「子育てサロン」などの施設が設置され，利用者が増加しています。
- ・幼稚園が地域の子育てを支援する事業や乳幼児を対象とした読み聞かせボランティア団体などによる市民活動なども充実しつつありますが，保護者は，さらに「子連れで出かける場所や親子が集まれる場所，イベントが欲しい」と願っています。
- ・今後は，気軽に子育ての悩み相談や情報が得られる場の充実に努めるとともに，地域・市民活動団体などによる親子体験の機会や子どもが多くの人とかがわりがもてる活動の充実が求められます。

#### （４）企業との連携の現状と課題

- ・子育てと仕事を両立するための休暇制度などを整備する企業が増加しています。
- ・今後は，保護者が家庭にできるだけいられるようにするため，育児休暇制度などを充実するとともに，この制度などを利用しやすい環境を作る必要があります。

（注12）ノウハウ 技術知識，こつなど。

## 【少年期（おおむね6～15歳未満の義務教育時期）】

### 【少年期の問題点】

よりよい人間関係を形成する力が低下しています。

進んで学んだり，活動したりする意欲が不足しています。

我慢する力や粘り強く物事に取り組む姿勢が不足しています。

体力が低下しています。

など

### （1）家庭教育の現状と課題

- ・家庭の形態は，三世代家族から核家族へ，さらに現在では，母子・父子家庭が増加するなど一層縮小化し，今まで家庭で培ってきた人間関係形成力や社会性の基礎の習得が困難になってきています。
- ・今後は，子どもの自主性や主体性を尊重するとともに，家族への思いやりや家庭内のルールを守る姿勢を身に付けさせるなど，社会性の基礎を培う取組が求められます。また，保護者が子育てに十分な時間を確保できる職場環境の整備が求められます。

### （2）小中学校の現状と課題

- ・学校は，専門的な人や物を活用して最も組織的・計画的に教育を行うところであるため，家庭や地域で教育すべきことを学校教育に求める傾向が強く，本来学校の果たすべき機能の低下が懸念されています。
- ・また，不登校や非行などが全国平均を上回っており，憂慮する状況にあります。
- ・今後は，家庭や地域の果たす役割を明確化し，学校の本来の機能である，確かな学力や豊かな人間性，健康・体力など「生きる力」の育成に努めることが求められます。
- ・さらに，学校は集団生活する場であり，様々な人々との交流などを通して，周囲の人々に配慮した判断力や自律心などの社会性を育成する教育に努めることが重要です。

### （3）地域や市民活動団体等の現状と課題

- ・地域活動に，中学生で約6割，小学生で約8割が参加し，ボランティア活動への参加意欲も高い状況にあります。また，大人の注意を受け入れる姿勢については，おおむね受容的であります。しかし，大人の方が，小中学生（特に中学生）へ言葉かけをすることについて「ためらい」があるようです。
- ・今後は，小中学生に，保護者はもとより，それ以外の大人や青年がかかわり，地域で子どもを育てる意識を高めることが求められます。また，自主性と責任感を育てるために，大人の支援を受けながら，計画・実行・評価まで小中学生自らに行わせる地域活動や，人間関係形成力を身に付けさせるための異年齢活動などを充実させることが重要です。

### （4）企業との連携の現状と課題

- ・企業と連携した教育は，現在，学校教育での社会体験活動に対する企業の協力が行われており，職業観や勤労観などを体験的に学ぶ良い機会となっています。
- ・今後は，これらの取組をさらに充実させるとともに，地域活動への協力も重要です。

## 【青年期（おおむね15～30歳未満の時期）】

### 【青年期の問題点】

目的意識の低下や勤労観，職業観が欠如した青年が増加しています。

人間関係を形成することが不得手な青年が増えています。

など

#### （1）家庭教育の現状と課題

- ・将来の生き方について，子どもとともに考え，先輩社会人として，的確なアドバイスをする機能が低下してきています。また，子どもの生活の自立を目指し，何事も自分で決め，実行し，結果に責任をもたせる教育が不十分な傾向にあります。
- ・今後は，先輩社会人として，積極的かつ自信をもった家庭教育が求められます。さらに，将来，家庭を築いていく主体を育成する観点から，家庭における保護者のかかわり方や家庭教育の意義について十分に考えさせる取組が重要です。

#### （2）高校や高等教育機関（専門学校，大学等）の現状と課題

- ・本市にある高校，高等教育機関には，多くの学科，学部が設置され，生徒の自己実現に十分に対応できる環境にあります。しかしながら，将来の生活設計や目的意識を十分にもたないで高校進学している青年の増加などにより，高校の中途退学者は高い数値を示しております。また，高校卒業後の無業者の数も増加傾向にあります。
- ・今後は，将来の計画とその実現に向けた意欲を喚起する教育や望ましい職業観，勤労観をもたせる進路指導の充実が求められます。また，雇用形態の変化などから，再就職や進路変更などに柔軟に対応できる教育システムの構築が求められます。

#### （3）地域や市民活動団体等の現状と課題

- ・青年は，生涯学習や文化・スポーツ活動に比較的積極的に取り組んでおり，また，ボランティア活動にも意欲をもっています。
- ・今後は，自己実現のために生涯学習や文化・スポーツ活動を一層推進させるとともに，地域の子どもたちをはぐくむ活動の計画・実行・評価に主体的にかかわることにより，自主性や責任感，リーダーシップなどを育成することが求められます。

#### （4）企業との連携の現状と課題

- ・職業観や勤労観などを育成するため，就業体験制度などに前向きに取り組もうとしている企業が増加しています。
- ・今後は，企業や学校，行政で構成する組織を立ち上げるなどして，さらに協力企業の拡大を図り，企業と連携した教育を一層推進することが必要です。
- ・また，一人一人の自己実現のために，働きながら研修やボランティアに参加できる制度や職業能力開発のためのリカレント教育（注13）を受けられる仕組みを構築することが求められます。

（注13）リカレント教育 一度社会に出た者が学校に戻り，職業能力向上などができるように組織された教育システム。

## 【成人期（おおむね30～65歳未満の時期）】

### 【成人期の問題点】

子育てに関する不安をもつ成人が増加しています。

次世代を育成する意識が低下しています。

「新しいものを作り出す創造性」や「情報技術・語学力などの社会変化に伴い必要とされる力」など、自己実現のための資質や能力が不十分であると考えられます。

### （１）家庭の現状と課題

- ・「子どもを叱りすぎているような気がする」など、子育てに不安や悩みを抱えている保護者が増加しています。このことが、行き過ぎた子どもへのしつけや放任などを生み、虐待相談件数の増加の一要因にもなっています。
- ・今後は、家庭で最低限子どもに身に付けさせるべき力を共通理解し、協力して子育てに取り組むことが求められます。
- ・配偶者や祖父母等などとのより良い人間関係を形成するための支援が求められます。

### （２）地域や市民活動団体等の現状と課題

- ・地域活動やボランティア活動などへの参加意識が、他の世代と比べ低くなっています。
- ・今後は、自己実現に向けた学びがいつでもどこでもできるよう学校、企業、市民活動団体などによる支援体制の確立が求められます。
- ・地域の一員として、また、子どもたちを健全育成する責任ある立場の成人として、地域活動やボランティアなどへの社会参加体験活動を充実させ、次代を築く子どもたちの育成に積極的に取り組むことが求められます。そのためには、地域活動の基盤となる地域コミュニティ<sup>(注14)</sup>やボランティア活動などのテーマ型コミュニティ<sup>(注15)</sup>の強化が重要です。

### （３）企業との連携の現状と課題

- ・保護者が家庭にできるだけ長くいられるようにするとともに、学校教育や地域活動に積極的に参加できるようにするため、企業内の休暇制度を確立する必要があります。
- ・一人一人の自己実現のために、働きながら研修やボランティアに参加できる制度や職業能力開発のためのリカレント教育を積極的に受けられる仕組みを構築することが求められます。

（注14）**地域コミュニティ** 「一定地域に居住し、共属感情を持つ人々の集団」であり、地域の課題を自主的・主体的に解決していくための地域住民や各種団体による仕組みなども含むもの。

（注15）**テーマ型コミュニティ** 市民活動団体を中心にして、特定のテーマの下に有志が集まって形成される集団、仕組み。

## 【高齢期（おおむね65歳以上）】

### 【高齢期の問題点】

独居老人が増加するとともに、高齢者の約半数が、老後、「働きたくない、働く必要がない」と考えており、社会とのつながりの希薄化が懸念されます。

老後やってみたいことは、「趣味」が多く、ボランティアなどの社会参加に関する活動は少ない傾向にあります。 など

### （1）家庭の現状と課題

- ・独居老人が増加しているものの、高齢者は、何かあったときには「子ども」や「子どもの家族」を頼りにしており、体力の衰えや親しい人たちとの死別など身体的、精神的な負荷がかかるこの時期、それを十分にケア（注16）する家庭の機能が不足しています。
- ・今後は、高齢者の身体的・精神的負荷に対する支援をするため、家族との温かな人間関係のもと、自分の人生などに前向きな姿勢がもてるようにすることが求められます。そのためには、長い人生から得られた経験や知恵などを若い家族に伝える場の確保に努め、家庭のかけがいのない存在である認識をもってもらうことが重要です。

### （2）地域や市民活動団体等の現状と課題

- ・老後は、「自分の趣味に時間を使いたい」と望む傾向が強く、社会とのつながりが希薄化することが懸念されています。また、地域活動への参加や生涯学習、文化・スポーツへの取組は十分とはいえない状況にあります。
- ・今後は、長年培ってきた英知を、地域活動やボランティア、企業の人材育成に生かす仕組みを構築するとともに、自己実現を目指した生涯学習、文化・スポーツ活動の取組が求められます。

### （3）企業との連携の現状と課題

- ・長年培った知識や経験を企業の若手人材育成に生かすなど、一人一人の新たな自己実現を図るために、再就職に向けた職能教育の充実が求められます。

---

（注16）**ケア**（する） 配慮したり、注意したりすること。

## 4 21世紀社会を生き抜くために求められる力

社会経済のグローバル化や高度情報化，少子高齢化，社会の階層化などの時代の潮流の中にあっても，新しい時代を切り拓いていける人づくりを目指し，宇都宮市民として身に付けたい5つの資質や能力を設定しました。

### (1) 目標を実現しようとする意欲・態度

どのような状況であっても，自己の目標を実現しようとする意欲や自己の行動に対し自らが責任をとっていく態度など，人生を主体的によりよく生きようとする意欲・態度が求められます。

### (2) 学ぶ力，創造する力

固定観念にとらわれず，多面的な視点や柔軟で創造的な発想による問題解決の能力が求められます。

### (3) 広い心，共生の精神

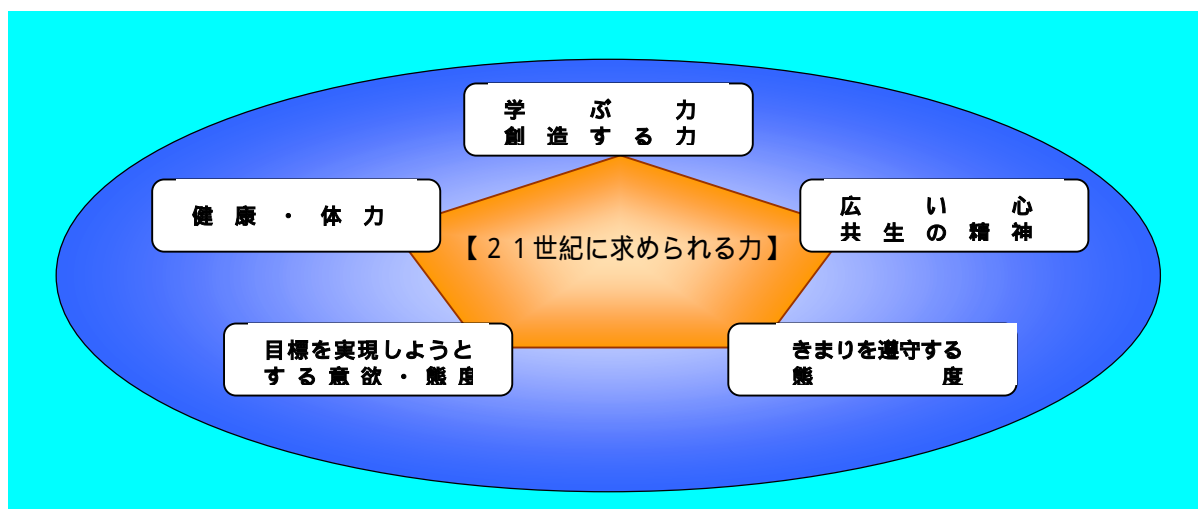
自らを律しつつ，他（人，自然）と協調する力や他人を思いやる心，人として生きるための倫理観などの豊かな人間性とコミュニケーション能力（注17），人間関係形成力が求められます。

### (4) きまりを遵守する態度

より良い家庭生活や社会生活をする上で，その一員としての自覚をもち，きまりを守ろうとする態度が求められます。

### (5) 健康・体力

たくましく生きるため，スポーツやレクリエーション，食生活などを通して自己の健康管理をしたり，体力を保持・増進したりする力が求められます。



(注17) コミュニケーション能力 情報や意思の伝達をする能力。言語だけでなく，身振り，表情，動作なども含む。